



全国切符を懸けて一斉にスタートする男子1区



それぞれの思いをタスキに込めて女子21校がスタート



1



2



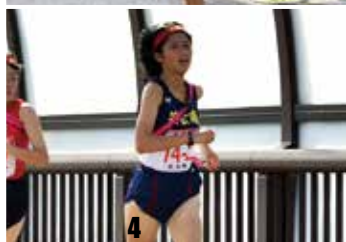
3



5



7



4



6



8



9

1\_大島詩音選手(若松商業=男子3区) 2\_青木剛選手(猪苗代=男子3区)と沿道で応援する猪苗代校生徒ら 3\_小檜山利輝選手(会津学鳳=男子2区) 4\_伊藤ほのか選手(若松商業=女子2区) 5\_安部樹選手(猪苗代=女子5区) 6\_女子4位でゴールする佐藤美澄選手(会津=女子5区) 7\_大塚翔流選手(喜多方桐桜=男子4区) 8\_吉田廉選手(猪苗代=男子4区) 9\_猪苗代高1区星野一步選手から2区長谷部宏仁選手へのタスキリレー

## 「都大路」出場を懸け

### 県高等学校駅伝競走大会

「都大路」への出場権を懸けた男子第61回、女子第34回県高等学校駅伝競走大会は10月26日、カメリーナをスタート・フィニッシュとする男子7区間42.195<sup>キロ</sup>、女子5区間21.0975<sup>キロ</sup>で争われました。大会には男子39校、女子21校が出場。男子は学法石川高校が2時間12分47秒で6年連続8度目の優勝。女子も学法石川高校が1時間14分29秒で2年ぶり3度目の優勝を果たし、男女とも全国大会出場の切符を手に入れました。

今大会には猪苗代高校や町中学校出身の選手も出場。強風の中を懸命に走る選手の姿に、沿道からは多くの町民らが盛んな声援を送りました。

猪苗代高校は陸上同好会やスキー部の生徒による特設チームで大会に臨み、男子が35位、女子が21位という結果となりました。女子2区を走った大森茜さん(2年)は「たくさんの声援ありがとうございました。繰り上げスタートとなり、最後までタスキを繋ぐことができず悔しい気持ちもありますが、今後に向けて良い刺激を受けました」と前を向きしました。



J R川桁駅をスタートする参加者



「高原列車は行く」を合唱する参加者ら

第18回いなわしろ軽便ウオーク。懐かしの沼尻軽便鉄道を訪ねては10月2日、J R川桁駅から中ノ沢温泉までの約18<sup>キロ</sup>のコースで行われました。このイベントは、町商工会青年部などで作る実行委員会が主催し、今年は町内外から約160人が参加。沼尻軽便鉄道の跡を歩きました。開会式では、青木智徳実行委員長らのあいさつの後、鈴木清孝さんのハーマニカの演奏に合わせて、沼尻軽便鉄道がモデルとなった名曲「高原列車は行く」を合唱しました。参加者は、黄金色に染まった田園風景を楽しみながら、思い思いのペースで終着駅の沼尻高原駅跡まで歩きました。中ノ沢温泉では、手打ちそばや豚汁の振る舞いのほか、民話の紹介などが行われ、参加者を楽しませました。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報猪苗代

Nov.2016  
11  
No.673

### 今月の表紙



【撮影日】 10月20日  
【撮影場所】 猪苗代湖北岸

猪苗代に冬の到来を告げる白鳥が飛来。約200羽の白鳥が猪苗代湖北岸で長旅の疲れを癒すように羽を休めていました。

## Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 県高等学校駅伝競走大会
- 04 【写真特集】保育所・こども園運動会
- 06 平成29年度児童・園児募集
- 08 平成28年度上半期財政状況
- 10 まちのわだい
- 14 笑顔でこんにちは／和みいなハロウィン
- 15 スクールトピックス
- 16 いなわしろタウンページ
- 22 暮らしの情報広場
- 24 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー